稲刈り援助も約束

宮浦行動隊　農村青年と懇談

宮浦支部行動隊では去る二十一日(日)初の南関地区の農村の青年たちと交流懇談会をもつた。労農提携は毎年さけばれており、重要なことはいまさら説くまでもないが、その割には実績はあがつていないようである。こういうことから、まず若者どうしは働く場所は違つても、同じ悩みで生活と闘つているのでお互い通じるものがあると、この懇談会に発展したが、こんごの活動に大きな期待がもたれている。以下は懇談会に出席した宮浦支部中谷教宣部員から寄せられたものである。

百姓も勉強をと叫ぶ農民たち（左側）

私たち行動隊では去る二十一日南関地区の封建色が残存する農村で青年たちと交流会をもつた。誰でも初めてであり、こわいものにさわる気持である。まず映画「女中ツ子」を上映して部落の人に楽しんでもらい、そのあとで会議をひらいた。農村側から二十数名、私たちが十二名で二時間にわたり話合つた。百姓と炭坑夫、一体この人たちが話合つたところで何になるだろうか?、そう思つている人もあつたろう。「米作りと炭ほりじゃ……」ところが話がだんだん進むうちに、米作りも炭ほりも、こやしつくりも機関手も豆腐屋もみんな話合わねばいけない、だれでもつながりがあるということがわかつてきた。

(1)百姓の大きな悩みは現金収入の少ないことである。農作物の低価格と肥料、農機具の高価はなぜか?。あそんでいて儲かる者がいるからだということがわかつた。

(2)首切りや賃下げが百姓の人たちにも関係のあることがわかり、私たちの闘いも理解された。

(3)地方議会にも、直接働く仲間を出さにやいかんということもわかつた。

(4)百姓が団結して、現在の農協を根底から立直さにやいかんということもわかつた。

(5)百姓も働くことだけでなく、休息日を設けて、今日のような話合いをしたり、勉強をして政治に関心をもつべきだということもわかつた。

苦しみを訴える農民

その外いろいろな問題で意見がとびだし、時間の不足が惜しまれた。ある中年の一人は「自分は結婚してから妻と二人で一度だつて映画に行つたことがない」というし、一人はテレビができ、映画もシネスコになつたが、農村の道路をみて下さい、せまい不便な道を昔ながらのノロ牛で百姓は一向に儲まれない。と文化に取残され食うに糊一杯の毎日を訴えていた。また一人は百姓の団結はむつかしい、一反農、八反農、これじゃ組合をつくつても第何組合までできるか知れない、もう少し百姓が勉強せんことにはむつかしいといつている。だが、百姓も土地所有の大小にかかわらず一致する問題は多い雨が降らねば日ごろ仲の良いものがにらみあう、その原因は百姓にあるのか?。黄金の波打つ稲作をみて、農作だ農作だとあたかも一人でにできた位考えているが、でき得べくしてできたものでなく、百姓の汗と油の結晶だ。まづ政治家は百姓の努力に目をむけよ。

必要な交流と援助

青年部長平野氏は「国民の四〇%をしめる百姓が、もうすこし自覚めるならばかならず現状が打開されるはず」と農民開放の決意をほのめかしておられた。

このようにいろいろな問題は理解されたが、これを行動にうつすことはむつかしい。農民だけでは、また青年だけではできない。ここにわれわれ組織労働者のたゆまざる交流と援助が必要であることを痛感した。私たちはますます交流をおこない提携を深めて行く。そのために、秋の刈入れには手弁当で手助けに行くことを約束したこの会議のなかで三川支部の西清氏が、日ごろ農民の人たちに協力し、親しまれている明るい話もききました。交流を通じてみんがえたことは、百姓の人たちがあまりにも素朴であること、そして労農提携は机上プランに終らせることなく、実践に移すべきことを痛感し組合員の皆様にも訴えたい。

映画

赤い陣羽織

木下順二の名戯曲の映画化

代官（中村雁三郎）のきている赤い陣羽織は、奥方信乃（春川京子）の実家の家宝で、着る時は許可がいる。

〃落武者だ!!〃〃それ!!〃と指揮しても敵に近づけば尻ごみする弱虫代官だが、信乃に報告するときは陣羽織にふさわしい勇将ぶりで獅子奮迅したように語る。

村の水車番甚兵衛（伊藤雄之助）には勿体ないほど美人の女房せん（有馬稲子）がいて、庄屋に神官、それに悪霊家の代官までがよろめいて虎視たんたんだが、せんは誰にもなびかない。

無礼講の村祭が来た。太鼓の鳴る間は何をしてもよいのだ。甚兵衛は計略にかかり外出し、留守のせんは代官の手ごめにあう寸前で護身用の鉄砲を発砲した。弱虫代官はビツクリして気絶した。せんが飛び出したあとへ甚兵衛が帰宅し裸で寝ている代官をみて、せんが犯されたと思い、口惜しまぎれに代官の奥方を犯して報復しようとそこにあつた陣羽織を着てかけだす。

太鼓の音で目覚めた代官は、甚兵衛の野良着で帰宅するが、門前払いをくい地だんだをふむ。

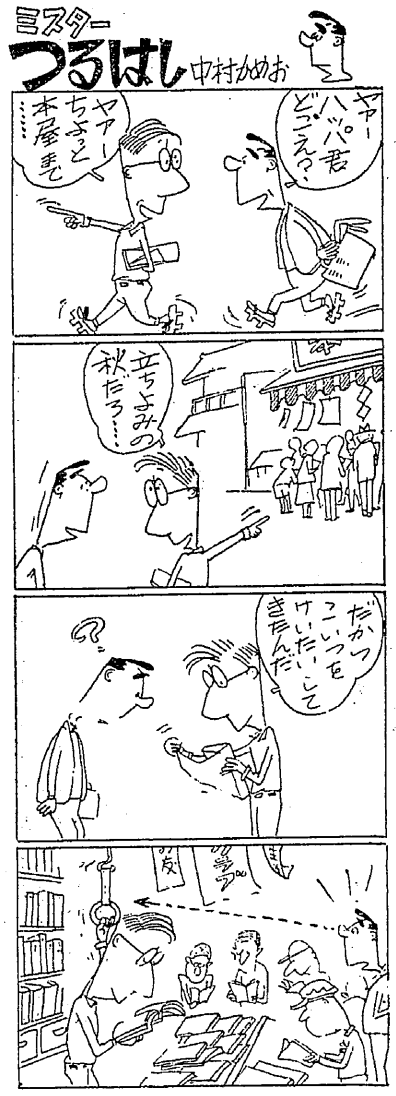
甚兵衛は信乃の気高さにうたれ手も足も出ず、反つて一部始終を立証する。

信乃の裁きで水車番夫婦は和解代官は大きなおかをすえられ平身低頭してわびた。

信乃のとりなしで彼女の父のお城詰めになるため村を去る代官の赤い陣羽織を見送りながら、甚兵衛とせんは〃代官の偉いのは陣羽織で人間ではなかつた〃と笑いながら語つた。

【大天地で一日から上映】

ミスターつるはし　中村かめお



お母さんは走る

四山・三川主婦会で運動会

秋!秋!スポーツのシーズンがやつてきた。いよいよ地域や職場ではソフトボール、バレー、運動会でわきたつが、シーズンのトップをきつて、まず四山、三川両支部の主婦会がそれぞれ四山グラウンド、新港グラウンドで秋晴れの晴天にめぐまれた二十一日、華やかで健康的な運動会のページェントをくりひろげた。二十八日の日曜には宮浦の地域対抗ソフトボール大会、三川の職場対抗バレー大会とスケジュールはぎつしりつまつている。

【四山】好天気とあつて主婦、組合員、子供が三千名つめかけ、九時に幕をあけた。お母さんたちの五十米競走でプログラムはすすめられ、競技の合間には各分会からえりぬきの人たちによる遊技も披露された。この日の呼びものは何といつても仮装行列、各分会が苦心してつくつただけに、見事な仮装隊が登場するありさま。審査を大牟田市長、三鉱政治局員にお願いした結果、社会を風刺した大島主婦連合のだしもの「勤務評定十年後」がはれの一等を獲得した。この日はお母さんたちも台所を留守にして、完全に解放され、終日グラウンドでイダテンぶりを発揮したのしいレクレーションをおこなつた。

【三川】秋とはいえ、カンカン照りつける残暑に新港グラウンドは日傘の波である。港務所の貯炭の山をはるかにのぞんで、プレーはつぎつぎとくりひろげられた。八十米競走でブタをあけ、スイカ運び、車運競走、学童リレー、平和行進、アメくい競走等など。目かくしをして描く「うちのお父さん」競走は、会場が一時に湧きたち、拍手と声援のなかに太つちょのお父さん、ピカソ調のお父さんとハンサムならぬお父さんがつぎつぎとできあがり大爆笑。

アメくい競走では、あたら美人のお母さんも口辺をアメ粉で真ツ白にして、さながら人くい土人の化粧よろしく、だがご本人は真剣に力のかぎり走りまくつた。

プログラムがすすむにつれて、会場も一きわなごやかとなり、ほんとうに顔もしらなかつたよそのお母さんとも、心と心がしつかり通じあつていつた。学童リレー、主婦会リレーをさいごに、楽しい運動会は、有意義に幕をおろした。

心のふるさと

〃さんさ時雨か　薄野の雨か
　音もせで来て　濡れかかる
　　ションガイナ
〃さんさふれふれ　五尺の袖を
　今宵振らいで　いつの夜に
　　ションガイナ
〃キジのめん鳥　小松の下で
　つまを呼ぶ声　千代千代と
　　ションガイナ
〃この家座敷は　めでたい座敷
　鶴と亀とが　舞い遊ぶ
　　ションガイナ
〃自出度うれしや
　思うこと　叶うた
　末は鶴亀　五葉の松
　　ションガイナ

天高く馬肥える秋をむかえ、朝晩はすつかり涼しくなりましたが、いよいよ婚礼など祝いごとのシーズンにちなんで「さんさ時雨」をご紹介してみましよう。

この唄は宮城県仙台地方の代表的民謡です。それも岩手、福島の東北線筋でうたわれているように、その分布もかなりひろく、片山里の僻村にいたるまで祝いごとでもあれば、まずこの唄が大勢で斉唱される。

「祝婚の合唱」日本版

さんさ時雨（宮城県民謡）

されるというひじようにおめでたいうたです。

ドイツが生んだ歌劇・楽劇作者リチャード・ワグナーの「祝婚の合唱」日本版ともいえるほど、喜びごと、祝いごとの席上で古くから愛唱されてきたのです。

一五八九年（天正十七年）秋、伊達政宗が今津義弘と磐梯山麓にある摺上ケ原（スリカミ）に対陣した折、露営中戦塵の労をいやすため即興会をもよおし伊達五郎成実という武士が、

音もせず　薄野の夜の
　　時雨きて
　袖にさんさと
　　濡れかかるかな

と歌つた風流な一句を政宗が讃え昔からとくに封建制度で有名な東北地方は、いまだに家と家とが結ばれるという感覚がぬけきれず、因習によられがちでしたが、青年男女の叫びによつて民主主義、男女平等、人権尊重が強調され、あたらしい世代が日に日につくられつつあります。

これによつて、旧来の慣習もしだいに影をひそめ、あたらしい時代に即応した形式が採用されているようです。

ややもすれば卑猥なうたで明け暮れる祝いごとに、私達は商業ベースにも健全な、このゆつたりとしたメロディーを「祝いのテーマ・ソング」としてとりあげ、明るく楽しく平和な明日への建設のためにうたいひろめ、古来の持味をもつと広く生かしたいものです。

（やました）

衛生クイズ

十月五日は全○労○衛○○○間家○衛○強調の日です。たのしい夕食がすんだら皆で家○全○が○康で○るく暮す方法を○合つて決めましよう。

所属　住所　氏名

労働衛生クイズ

十月一日から労働衛生週間

昭和三十三年度の全国労働衛生週間は十月一日から七日まで実施されます。

この運動期間にちなんで〃労働衛生週間クイズ〃を募集していますので、ふるつて応募して下さい。

◈締切　十月四日

◈発表　十月七日各鉱所人事係より通知します。

◈資格　三池炭鉱勤務員とその家族

◈用紙　本紙掲載の用紙、一人一枚のこと。

◈賞品　一等　各鉱所一名＝千円程度の品
　二等　各鉱所二名（三川三名）＝六百円程度の品
　三等　各鉱所四十名（三川六十名）＝五十円程度の品

◈宛先　所属各鉱所人事係

なお、正解者多数の場合は抽選による。